

## 論文の要約

報告番号	甲保 第 12 号 乙保	氏名	松崎和代
学位論文題目	Associations of menopausal symptoms with job-related stress factors in nurses in Japan (日本の看護師における更年期症状と仕事関連ストレス要因との関連)		
<p>更年期症状はエストロゲンの急激な減少に起因してみられるが、家庭や職場など社会的要因による精神的ストレスも関係する。現在、本邦において職場における更年期女性の割合は増加している。仕事関連のストレスは社会的要因として更年期症状の一因となり、世界的にも注目されている。看護師は交代制勤務で、非常にストレスの多い職業であり、全産業の女性に比べ健康不調やストレスを訴える割合が高率であることが報告されている。さらに、日本の管理職の女性の平均年齢は43.8から47.9歳に渡っており、管理職の看護師にとっても更年期症状は重要な問題である。看護師自身の身体的および精神的な健康は、看護の質に影響するため重要である。特に病棟責任者や看護師長のような管理職は、管理面でのストレスが多く、そのレベルも高い可能性があり、管理職における更年期症状は、非管理職における更年期症状とは異なることが考えられる。しかし、日本において、看護師の更年期症状と仕事におけるストレスとの関連、特に管理職と非管理職との比較を明らかにした研究は見当たらない。</p> <p><b>【目的】</b>本研究の目的は、本邦の周閉経期の看護師において更年期症状と仕事関連ストレス要因との関連を明らかにすることである。特に、管理職と非管理職との間で、更年期症状と仕事関連ストレス要因に違いが存在するかどうかについて検討を行った。</p> <p><b>【方法】</b>全国の45～60歳の1700人の看護師を対象として、Greene's Climacteric Scale (GCS)および職業性ストレス簡易調査票を用いて質問紙調査を実施し、種々の要因について解析を行った。</p> <p><b>【結果】</b>質問紙の回収率は、77.4%であった。対象の条件（更年期症状様症状を示す他の疾患や薬物治療中の対象者を除く）を満たし、有効回答が得られた管理職514名と非管理職655名を分析対象とした。対象者の平均年齢(±SD)は、51.2 (±4.2)歳であった。閉経状況はpremenopause (28.9%), perimenopause (18.8%), postmenopause (45.4%), 人工閉経(6.9%)であり、管理職と非管理職との間で有意差はなかった。看護師全体で見ると、更年期症状としては、「疲れや倦怠感を感じる(94.8%)」「イライラする(77.5%)」「集中力がない(74.8%)」と感じている割合が高かった。一方、仕事関連ストレス要因としては、心理的な仕事の質的負担が多く、仕事関連ストレスの総得点は、更年期症状の総得点と有意な相関関係があり、(<math>r=-0.291, p&lt;0.01</math>)、特に精神神経症状との相関が強く認められた(<math>r=-0.306, p&lt;0.01</math>)。また、精神神経症状は仕事関連ストレス要因のうち対人関係と相関が認められた(<math>r=-0.223, p&lt;0.01</math>)。血管運動神経症状や知覚運動症状については、仕事関連ストレス要因と明らかな相関関係がみられず、看護師の更年期症状</p>			

は、雇用形態や勤務形態、喫煙や飲酒習慣などの個人属性とも相関がなかった。一方、管理職と非管理職の比較においては、管理職は更年期症状として、「憂鬱になる」「急に泣きたくなる」と感じている割合が非管理職より有意に高かった( $p < 0.05$ )。仕事関連ストレス要因については、管理職は心理的な仕事の量的負担に関連したストレスが有意に強く( $p < 0.05$ )、非管理職は身体的負担、仕事のコントロール、技術の活用、職場環境と働きがいに関連したストレスが強かった( $p < 0.05$ )。精神神経症状は管理職、非管理職ともに、仕事関連ストレス要因の対人関係と相関があり(管理職  $r = -0.226, p < 0.01$ , 非管理職  $r = -0.222, p < 0.01$ )、管理職の精神神経症状は仕事の適性度( $r = -0.264, p < 0.01$ )と働きがい( $r = -0.260, p < 0.01$ )との間にも相関関係が認められた。

**【考察】**看護師は多忙な労働環境による身体的負担や技術活用に関してストレスを感じており、更年期症状の疲労や倦怠感、イライラ感に関連していると考えられる。海外の研究結果においても、看護師の更年期症状として疲労、イライラ感、関節痛を感じている割合が高いことが報告されている。また、管理職には、人的資源管理や医療事故防止に関する管理責任が求められ、仕事の心理的負担によるストレスが強いことから、憂鬱になる、急に泣きたくなる等の更年期症状に関連していると考えられる。仕事と更年期症状の間には相互関係があり、ストレスの多い労働条件が更年期症状の悪化と関係している可能性がある。したがって、仕事関連のストレス要因をできるだけ少なくすることは、更年期症状の改善につながり、看護師の身体的および精神的な健康を保つために重要である。なお、今回の検討は横断的検討であるため、更年期症状と仕事のストレスとの間に関連があることは明らかになったが、原因結果に関する因果関係を明らかにすることはできなかった。

**【まとめ】**1. 看護師の更年期症状として、疲れや倦怠感、イライラ感、集中力の困難を感じている割合が高かった。仕事関連ストレス要因と更年期症状、特に精神神経症状との間に有意な関連が認められ、中でも対人関係と関連が強かった。2. 管理職は、憂鬱になる、急に泣きたくなるといった更年期症状を感じている割合が、非管理職より有意に高かった。また、心理的な仕事の量的負担に関連したストレスが強く、非管理職は身体的負担、仕事のコントロール、技術の活用、職場環境と働きがいに関連したストレスが強かった。管理職の精神神経症状は仕事の適性度と働きがいと相関があった。

**【結論】**医療従事者は、周閉経期女性において、更年期症状が仕事関連ストレスと関係していることに注意すべきである。看護師の管理職と非管理職における更年期症状や仕事関連ストレス要因の違いに関する情報は、職位に応じた看護師個々の健康管理として重要である。